

経塚森遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市名取字経塚森
北緯・東経 38度30分37秒・140度22分11秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢間）
調査面積 3120㎡
現地調査 平成22年5月17日～8月27日・10月19日～11月30日
調査担当者 三浦勝美（現場責任者）・大場正善・安部将平
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 平安時代
遺構 掘立柱建物跡、溝跡、土坑
遺物 土師器・須恵器（文化財認定箱数：1箱）



図1 遺跡位置図（1：50,000）

経塚森遺跡は、村山市役所より北西約3km、さくらんぼカントリークラブゴルフ場南部の丘陵に立地し、現在は畑地である。

見つかった遺構には、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピットがある。掘立柱建物跡は、調査区の中央で、2棟が東西に並んだ状態で見つかった。いずれも柱間は2×2間、規模は約3.5m×約3.3mである。柱穴の掘り方は円形で、直径は約30cmとなっている。全体としては小規模であるため、小型の倉庫として使用された可能性がある。溝跡は、南西―北東方向に、長さ約12m幅

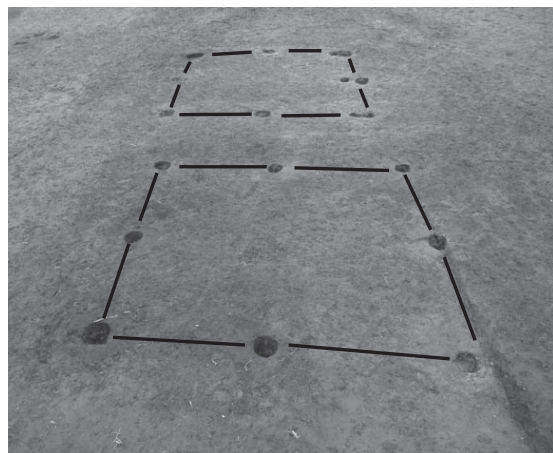


図2 掘立柱建物跡SB 20（前）・SB 30（奥）

約70cmのものと、長さ約2m幅30cmのものがみつかり、同一の遺構と考えられる。

遺物では、ロクロでつくられた土師器や須恵器といった土器が見つかり、平安時代のもと考えられる。しかし、遺構内部から見つかったものではなく、耕作土である表土層や、その下の黒色土層から見つかったものがほとんどである。おそらく、西側の丘陵から流れてきたものではないかと考えられる。今回の調査区は、遺跡範囲東側の低地にあたることから、集落の中心は西側の丘陵地にあったのではないかと考えられる。